

むすこアルマの くいあらため

だい18しょう



モーサヤ王^{おう}は、アルマをゼラヘムラの教会^{きょうかい}のしどうしゃににんじました。そこでアルマは、ニーファイ人^{じん}を教えるのをたすけてくれる人^{ひと}びとをえらびました。(モーサヤ25 : 19 ; 26 : 8)



アルマとモーサヤ王^{おう}には、しんぱいごとがありました。それは、主^{しゅ}をしんじない人^{ひと}たちが教会^{きょうかい}いんをくるしめていたことでした。(モーサヤ27 : 1)



アルマには、おなままえのむすこがいました。むすこのアルマは、おとうさんの教えをしんじないばかりか、とてもつみぶかい人間^{にんげん}になっていました。(モーサヤ27 : 8)



むすこのアルマとモーサヤ王^{おう}の4人^{にん}のむすこは、教会^{きょうかい}をはくがいしました。かれらは人^{ひと}びとがこのむことを言い、教会^{きょうかい}からはなれさせようとしたり、わるいことをさせようとしたりしました。(モーサヤ27 : 8)



アルマはむすこがしんりを知^しって、くいあらためてくれるようにといのりました。(モーサヤ27 : 14)



むすこのアルマとモーサヤ王のむすこたちは、^{おもう}教会をほろぼそうと、^{あるまわ}歩き回っていました。(モーサヤ27：10)



そんなある日のことです。てんしがかれらにあらわれ、じめんがゆれるような^{おお}大きな^{こえ}声^{はな}で話しかけました。(モーサヤ27：11)



5人のわかものは、ひどくおどろいて、じめん^{にん}にたおれてしまいました。はじめは、てんしの^い言ったことがわかりませんでした。(モーサヤ27：12)



てんしは^{きょうかい}教会いんのいのりにこたえ、^きやって来たのです。そして、アルマに言いました。「なぜ^{きょうかい}教会をはくがいのするののか。」(モーサヤ27：13-14)



てんしが、「^{きょうかい}にどと教会をほろぼそうとしてはならない」と言う^いと、じめんがゆれました。(モーサヤ27：15-16)



アルマとモーサヤのむすこたちは、またじめん^{にん}にたおれてしまいました。5人は、てんしを見たのです。そして、^{かみ}神の力がじめんを^しゆりうごかしたのを知ったのです。(モーサヤ27：18)



むすこのアルマは、おどろきのあまりものを言うことができなくなりました。また、力が弱ちからよわくなって手てをうごかすこともできなくなっていました。(モーサヤ27：19)



モーサヤの4人にんのむすこは、アルマをお父とうさんのところまではこ
んで行き、自分じぶんたちにおこったことをすっかり話はなして聞きかせました。
(モーサヤ27：19—20)



お父とうさんのアルマは、大いおおによるこびました。神かみがいのりを聞き
とどけてくださったと分わかったからです。(モーサヤ27：20)



お父とうさんのアルマは、おおぜいひとの人をよびあつめて、主しゅが自分じぶんと
モーサヤのむすこたちになされたことを見みせました。(モーサヤ
27：21)



そして、アルマは教会きょうかいのしどうしゃたちとともに、だんじきして
いのり、むすこのアルマが元げん気になるようにと神かみにねがいました。
(モーサヤ27：22)



2日2日かばんして、むすこのアルマは力ちからをとりもどし、また話はなし
できるようになりました。(モーサヤ27：23)



むすこのアルマはこう話しました。「わたしはつみをくいあらためました。そして、神はわたしをゆるしてくださいました。」(モーサヤ27：24)



また、人はみな正しいものにならないければ、神の国に入ることはできないことや、つみのために大いにくるしんだことを話しました。(モーサヤ27：25-26, 29)



くいあらためてから、むすこのアルマはしあわせでした。神のゆるしをえたからです。アルマは、自分が神からあいされていることも知りました。(モーサヤ27：28)



むすこのアルマとモーサヤ王のむすこたちは、ぜんこくを回ってしんりを教えはじめ、自分が見たり聞いたりしたことをみんなに話しました。(モーサヤ27：32)



かれらは自分たちがおかしたまちがいを正すために、人びとにせいぶんについてせつめいし、イエス・キリストについて教えました。(モーサヤ27：35)



むすこのアルマとモーサヤのむすこたちがふくいんをつたえるとき、神はしゅくふくしてくださり、多くの人がその話を聞き、しんじました。(モーサヤ27：36)